

学生連絡会発 学生による学会活動報告

秋の大会に向けて 最終回(全3回)

—学生とシニアの対話 in 九大—

学生連絡会 春日章治(東京工業大学), 中村 誠(九州大学)

2006年5月12日金曜日、九州大学箱崎キャンパスにおいて、「学生とシニアとの対話 in 九州」が開催された。2005年7月に武蔵工大で開催された第1回目の「対話」から数え今回で6回目となる。

全国規模に発展した「学生とシニアの対話」

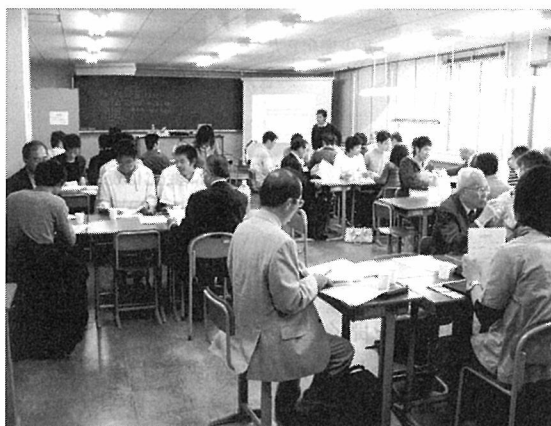
今回、九州で「対話」が開催されたことにより、北は八戸から南は九州までほぼ全国を網羅することができた(第1図)(北海道では今秋に開催予定)。前回(学会誌2006年5月号参照)までの「対話」では、学生連絡会主導で準備と当日の運営が行われたが、今回の「対話」では、学生連絡会以外の学生が主導して準備と当日の運営を行ったのが特徴である。学生連絡会では、今まで行われてきた「対話」のフィードバックを基に「対話実施マニュアル」を作成しており、今回はこのマニュアルに従って学生連絡会以外の学生が準備と運営を行った。「対話」開催までは学生連絡会がメールなどの通信手段を用いて必要に応じてサポートし、当日は学生連絡会の運営委員がオブザーバーとして参加した。今回このような流れで「対話」が開催できたことは、運営委員のいない大学での開催も可能であるということになり、対象大学の拡大を図るためには大きな一歩であったといえる。

「対話」の流れも確立

今回の「学生とシニアとの対話」は、前回同様、林氏によって「エネルギー問題を原点から考えよう」と題して基調講演が行われ、エネルギー問題について問題提起が行われた。その後、参加学生に対する事前のアンケート結果に基づき、7グループに分かれて議論が行われた。6回目の開催ということもあり、「対話」は終始スムーズに

行われた(第2、3図)。

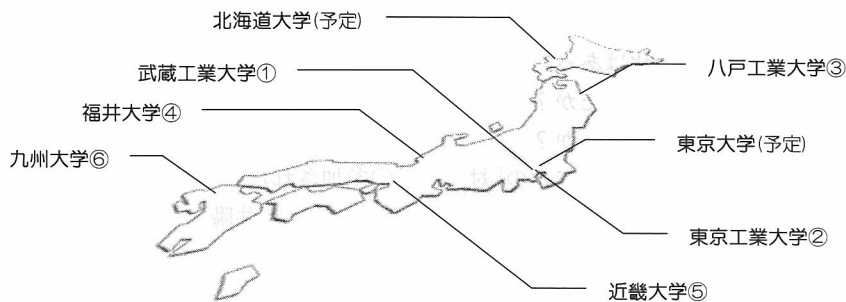
「対話」が開催されるようになった当初は、学生から期待したほど活発には意見が出ないということもあり、そのような時にはどうしてもシニアの方から発言があり、



第2図 開会セッション

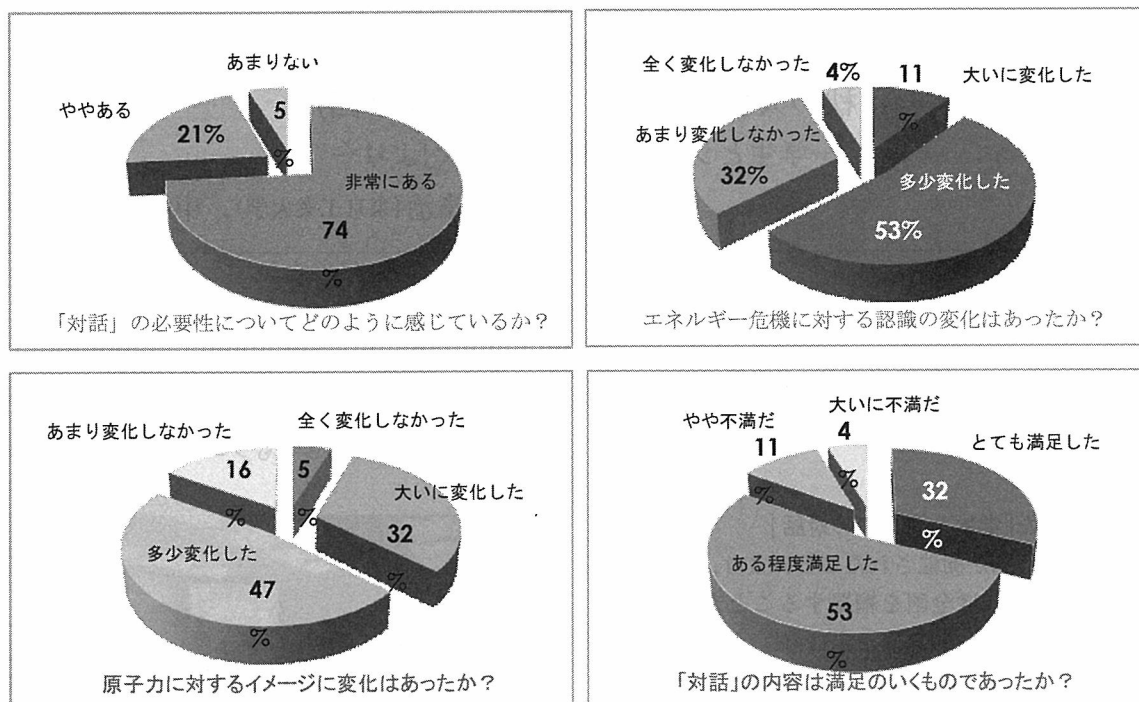


第3図 グループディスカッション



※近畿大学では、京都大学・大阪大学・神戸大学も参加

第1図 「学生とシニアの対話」が開催された大学(数字は開催順)



※ 参加学生 35 名にアンケートを実施、有効回答数 19 名
第 4 図 事後アンケート集計結果

学生が一方的に話を聞くという状況になってしまわざるを得なかった。しかし、今回の「対話」では、過去 5 回の試行錯誤の経験が活かされ、学生から意見が活発に出なくなった時には、シニアの方から学生側に質問を投げかけるという形が取られた。これにより、学生も答えをどんどん出して、双方向の「対話」ができるようになった。

普段、このような真面目な話に触れることの少ない学生にとっては、慣れない場で自分の意見を述べるということが苦手な面もあるが、この「対話」に刺激されたのか、本編終了後の懇親会では、積極的にシニアに話しかける学生も見られた。この「対話」によって、学生が原子力に対する正しい理解と自信を持てたという事実を垣間見ることができた。

事後アンケートより

今回の「対話」後に参加学生に下記の質問でアンケートを行った。

1. 学生とシニアとの「対話」の必要性についてどのように感じているか?
2. エネルギー危機に対する認識の変化はあったか?
3. 原子力に対するイメージに変化はあったか?
4. 「対話」の内容は満足のものであったか?

集計結果より、多くの学生がこのようなシニアとの「対話」を意義あるものと考えていることがわかった。しかしその一方で、「対話」の内容に満足した学生は少なかったことがわかった。これは、今回参加した学生全員が原子力専攻であったため、学生にとって議論の内容がやや易しかったためと考えられる。また、より詳しく学生の

意見を聞いてみると、エネルギー危機に対する認識と原子力に対するイメージの変化があまり見られなかったのは、もともとエネルギー問題に関して危機感を抱いていた学生が多かったためである(第 4 図)。

今後への期待

6 回の開催を通して、「対話」の流れもかなり確立され、比較的短期間の準備で、有意義な「対話」を実施できるまで来た感じがする。今後は今までの開催実績を基にさらなる対象大学の拡大と一度開催した大学で再度開催するなどして、少しでも多くの学生が「対話」に参加できるような体制にしていきたい。なお、今後は、東京大学と北海道大学での「対話」が予定されている。

また、原子力系専攻以外の学生や原子力反対派の学生に対しても参加を呼びかけることで、さらに広い視野で議論を進めることができるのではないかという意見も寄せられている。今後はこのような意見も取り入れていきたい。今後も、学生が原子力に対して正しい理解を持った上で、しっかりとしたキャリアプラン持ち、それに基づいて自信を持って行動することができるよう、そのような機会の提供を行っていきたいと考えている。

○参加されたシニアの皆様

天野 治、石井陽一郎、金氏 顕、竹内哲夫、中神靖雄、林 勉、松岡 強、山崎吉秀、松永一郎、鈴木一雄の各氏

また大学からは、工藤和彦(九大)、島津洋一郎(北大)の両教授が参加された。